

魚病診断結果について

湯浅 明彦

水産研究所では魚介類の感染症（魚病）による被害を軽減するために、魚病対策の指導を行ってきた。また、魚病の発生やまん延を防止するために、魚病の監視や養殖場の巡回指導を行っている。今年度の魚病診断の件数と診断結果について報告する。

魚病診断件数

平成20年4月から平成21年3月の間に63件の魚病診断を実施した（表1）。前年度と比較して海面は同数、内水面で4件増加した。診断対象として、養殖魚（クルマエビを含む）以外に水産研究所で試験的に飼育していたハモと、公共用水面で死亡したマゴイが含まれる。

魚病診断結果

表2に海産魚の魚病診断結果を示した。ブリの3年魚が、避寒漁場と移動後の播磨灘の養殖場で4～5月に斃死した。レンサ球菌症原因菌が同症経口ワクチンを投与した履歴のある死亡魚から検出されたが、その他の病原体は検出されなかった。その後、水産総合研究センター養殖研究所に検査を依頼した検体から鰓の原生動物の寄生がみつきり、寄生にともなう上皮細胞の肥厚による窒息死が疑われたが、全容をあきらかにすることができなかった。県南部の2養殖漁場で一歳魚のカンパチに類結節症が6月のほぼ同時期に発生した。原因菌はアンピシリン製剤に感受性があり、投薬の効果が良好であった。8月から10月にイリドウィル

表1. 魚種別の月別診断件数

魚種名	年 H20										H21			計	
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
海面	ブリ（1才以上）	1	2												3
	カンパチ			2				1							3
	トラフグ		1	1	1										3
	マダイ					1			1						2
	クロマグロ				1		1								2
	イシガキダイ							1							1
	ハモ					1	1			1					3
	クルマエビ							1							1
	小計	1	3	3	2	2	2	2	1	1	0	0	0		17
内水面	アユ	4	3	4	2	1		1	1	2		2	3		23
	ウナギ	2			1	2		3	1	2	2	1	2		16
	コイ		1		2		4								7
	小計	6	4	4	5	3	4	4	2	4	2	3	5		46

表2. 海産魚の魚病診断結果

魚種名	病名	年 H20										H21			計
		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
ブリ	レンサ球菌症			1											1
	不明		1	1											2
カンパチ	類結節症				2										2
	ノカルジア症								1						1
トラフグ	ピブリオ病				1										1
	ヘテロボツリウム症				1										1
	アミルウージニウム症					1									1
	不明			1											1
マダイ	イリドウィルス病							1							1
	不明										1				1
クロマグロ	イリドウィルス病								1						1
	ピブリオ病					1									1
イシガキダイ	イリドウィルス病									1					1
ハモ	エドワジエラ症							1	1						2
	ネオベニデニア症											1			1
クルマエビ	ウイルス性血症（PAV）								1						1
合計			1	3	4	2	2	3	2	1	1	0	0	0	19

ス病がマダイとクロマグロとイシガキダイに発生した。マダイとクロマグロは同一漁場で飼育されていた。水産研究所で飼育していたハモにエドワジエラ症が発生した。特徴的な症状は、生殖孔から胃の先端が風船のように膨満して突出するとともに、鰓がうっ血していた。同症による累積死亡率は47%に達した。

表3に淡水魚の漁病診断結果を示した。4月から8月に養殖アユに細菌性鰓病とボケ病が発生した。両病の症状は、鰓弁のうっ血、摂餌量の低下、活力の低下に伴う池の隅での蛸集などが共通していた。ウエットマウント検鏡により、鰓の上皮細胞に桿菌の増生が認められるものを細菌性

鰓病とし、確認できないものはボケ病とした。2月に発生した鰓の褪色を症状とするアユの低酸素障害は、亜硝酸態窒素濃度の上昇(0.5ppm)と、溶存酸素飽和度の低下(55%)が原因であると考えられた。いずれも致死量ではないものの、摂餌後に相乗的に作用したことがアユ稚魚の死亡の原因であると考えられた。

7月に那賀川水系でコイヘルペスウイルス病(KHV)の発病が確認された。高水温期であったために死亡数は漸減したが、9月に再び桑野川と打樋川で発病による死亡が確認された。平成17年5月に初めて吉野川水系で発病が確認されてから3年後に、那賀川水系で同病の感染が広がった。

表3. 淡水魚の魚病診断結果

魚種名	病名	年H20										H21			計
		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
アユ	冷水病				1	1			1	1	1		1	2	8
	細菌性鰓病		1	1	1	1	1							1	6
	シュードモナス病									1					1
	内臓真菌症		1												1
	ボケ病		1	1											2
	チョウチン症		1												1
	低酸素障害													1	1
	不明			1	2						1				4
小計		4	3	4	2	1	0	1	2	2	0	2	3	24	
ウナギ	パラコ口病		2			1	1			1		2	1	2	10
	シュードダクチロギルス症						1		1						2
	ウイルス性血管内皮壊死症								1		2	1			4
	不明								1						1
小計		2	0	0	1	2	0	3	1	2	3	1	2	16	
コイ	コイヘルペスウイルス病の検査			1		2		4						7	
合計		6	4	4	5	3	4	4	3	4	3	3	5	47	